

徳「人およへる思ひの程を申さねばならぬ」

平「何半半程を申すの程を申さねばならぬ」

徳「何半半程を申すの程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

徳「申す程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

徳「申す程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

徳「申す程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

徳「申す程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

徳「申す程を申さねばならぬ」

平「その程を申さねばならぬ」

財団法人協同會大阪支所

井「その悪い理由の例を参考の爲めに見せて下さい」

松「兼ねての統計で行くのだから例はない」

青「その統計を見せて下さい」

松「それはない青柿どんな人かと云へばよく喋る人だと思ふそれが統計だ」

梅「私と一諸にやられた人でよく働く人がありました、どの朋輩も皆感心してあの人やられたのは偏波だと云つて居ります」

松「人間だから偏波のことがあるかも知れぬ」

平「その爲に違つて首になつた方はどんなものでせうか貴方の方は間違つたて済むが生活に困る我々は何となる」

松「兼ねて働くと云ふて居るのだ」

平「よく働いても不公平な報告による犠首は困る」

松「今後は公平な様にする」

平「今後は今後で宜敷しい、然し私の重大な此の問題を如何にして

財団法人協同會大阪支所